

▶ 会長挨拶



日本では、90年近くに及ぶハンセン病隔離政策の下で、わたしたち市民も、国や地方自治体と一体となり、戦前と戦後に「無らい県運動」を展開し、ハンセン病を患った人々を故郷や家族から引き離し、ハンセン病療養所へ収容する役割を担ってきました。私たちは、このような過去の歴史の反省を深く受け止めました。

そして、2004年3月に岡山県瀬戸内市にある国立療養所長島愛生園と邑久光明園の入所者の皆さんの社会参加を支援し、ハンセン病に対する差別偏見を解消するための活動を行うことを目的として、ハンセンボランティア「ゆいの会」を立ち上げました。そして、現在まで、両園及び各入所者自治会の皆さんとも密接に連携しつつ、さまざまな活動を行ってきました。

当会は、ハンセン病療養所の将来構想の問題にも積極的に関わっており、私たち市民に求められる役割は今後も確実に増えていくと思います。

ぜひ、パンフレットを手にとって「ゆいの会」の活動を知っていただき、多くの市民の方々に「ゆいの会」の活動に参加していただけることを心より願っています。

会長 近 藤 剛

▶ 活動紹介

① 歴史館ボランティア参加報告



本日の来館者は、小学校6年生52人の皆さんです。

まず、新設された日出国館で、入所時のこと、当時の生活の様子、人

権闘争、長島大橋架橋運動について、Aさんがお話なさいました。子どもたちは、熱心に話を聴き、Aさんに質問や感想を発表していました。

Aさんは「つらい体験を積み重ねて、人様の痛みに寄り添える人間になることができました。心がズタズタに傷ついたからこそ、人の優しさや思いやりが心に染み入りました。だから、自分の人生に感謝しています。皆さんもじっくり学んで、生きてきてよかったと思える学校や世の中にしてください」と答えておられました。

昼食後、予定通り歴史館見学、園内見学を行いました。最後の見学場所の万霊山納骨堂では、献花、黙とうし、引率の先生のご指導で本日の学習のまとめをされました。人権教育に熱心に取り組んでおられる学校の先生や子どもたちにも感じました一日になりました。



② ふれあいボランティア参加報告

大先輩のボランティアの方と一緒に、初参加させていただきました。できるだろうか・・・少し不安な思いで向かいました。病棟内の部屋で、テーブルの上を拭いたり、CDをかけたりと、なんとかできることをこなし、準備が整いました。

「コーヒーのいい香りがする・・・」とにぎやかにおしゃべりしながら、BさんとCさんが看護師さんと3人でいらっしゃいました。Bさんは、人形を百体も作られたそうです。また、陶芸もされるなど、とても器用な方だと、Cさんが話してくださいました。Bさんは、時々相手をいれながらコーヒーを飲んでおられました。

よくお話をしてくださる方、口数の少ない方、そしてコーヒーもとろみをつけないと飲めない方、熱いと飲めない方・・・すべて初めてのことで、どのようなにお話をお聞きしてゆけばよいのか、よくわからなまま、逆に下手な聞き手を氣遣ってお話していただいた気がします。先輩にもいろいろお氣遣いいただきました。ありがとうございました。

